

せん どう ひら こう もん
船頭平閘門



重要文化財

平成12年5月25日指定



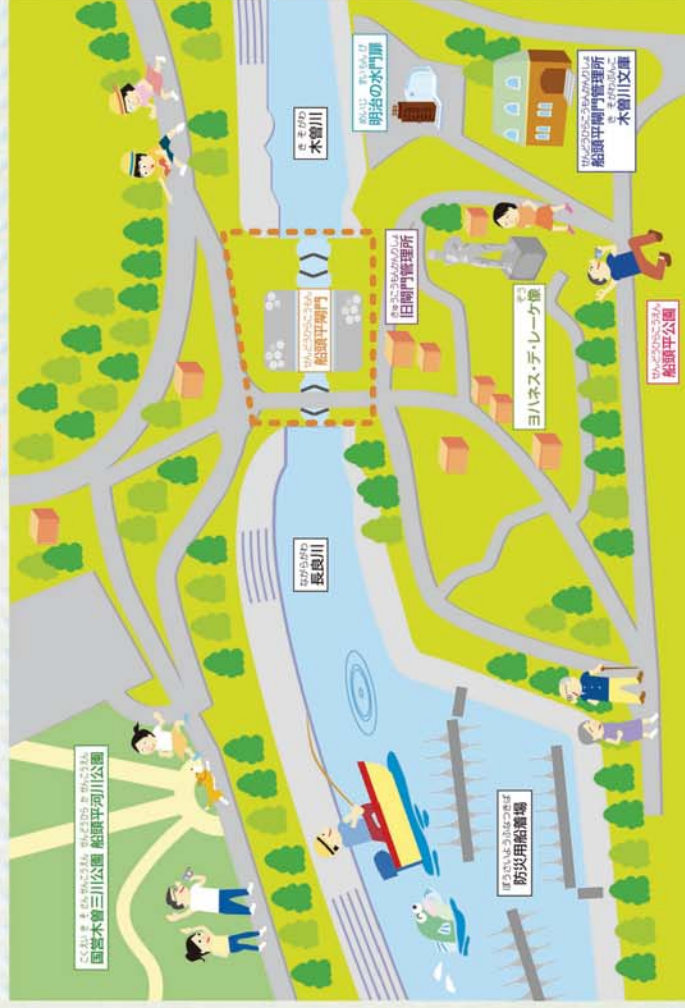
ヨハネス・デ・レイケ像



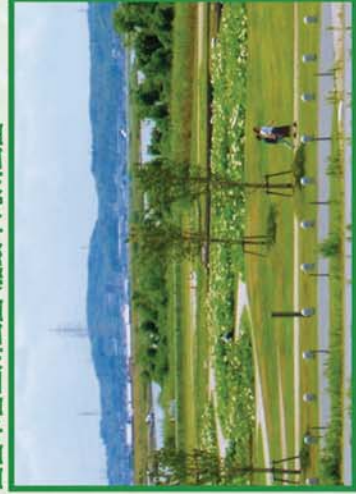
魅力がいっぱい!!

魅力がいっぱい!! 水門のこいの場、船頭平公園と 人々の暮らしを守る船頭平水門

文化財指定区域

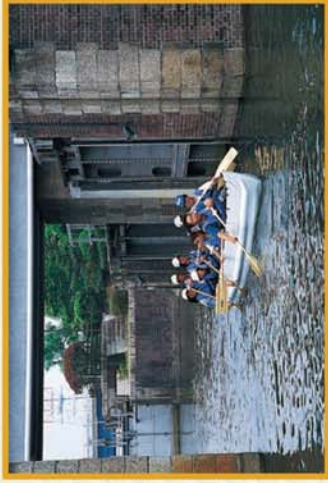


国営木曾三川公園 船頭平河川公園



船頭平公園

船頭平水門



船頭平水門管理所・木曾川文庫



明治の水門扉



旧水門管理所



せん どう ひら こうもん ぎ せん わ しつ ちん
船頭平閘門の疑問が分かる7つの質問

1

Q.重要文化財

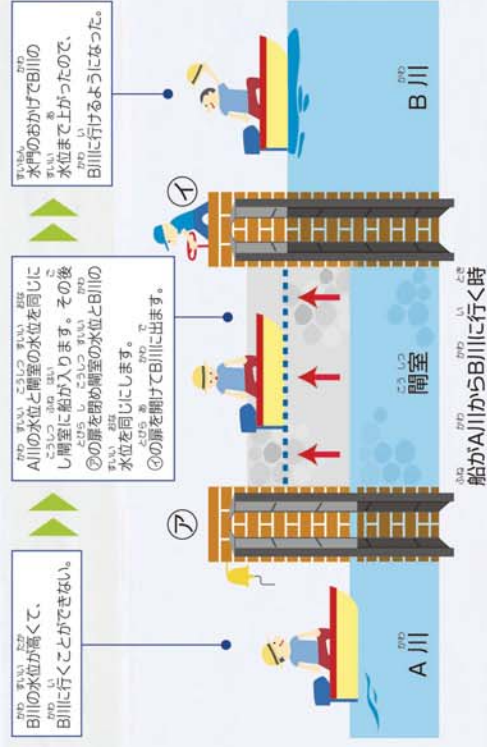
船頭平閘門は、平成12年5月25日に以下の理由により重要文化財に指定されました。

- ① 我が国で数少ない明治時代に建設された閘門で現在も使用されている。
- ② 複閘式閘門としては我が国初期のものである。
- ③ 躯体、門扉共に近代的材料、工法で建設された閘門である。

2

Q.閘門て何?

船が、水面の高さの違う川、水路、海などを進むときは、水門で水を調節し、水面の高さを一定にたもちます。このはたらきを水門を閘門といいます。



3

Q.船頭平閘門はどうして必要なの?

大昔、木曾三川はつながっていて、物資をつんだ船が行き来していました。しかし、このような便利な川も洪水の時には、木曾川の水が長良川や揖斐川に流れ込むことになり、浸水被害がたびたび発生し、木曾三川を分離することが昔から地域の願いでした。永きに渡るこの願いに応えるため、オランダ人技術者ヨハニス・デ・レイケの指導により1887年(明治20年)から明治改修工事が行われ、木曾三川が分離されました。

これにより、船で隣の川に行き、木曾川と長良川の行き来ができるよう船頭平に閘門が建設されました。



※1 ヨハニス・デ・レイケは、明治政府の招きにより1873年(明治6年)から30年に渡り在日し、日本の河川・船舶・港湾事業を指導した土木技術者です。



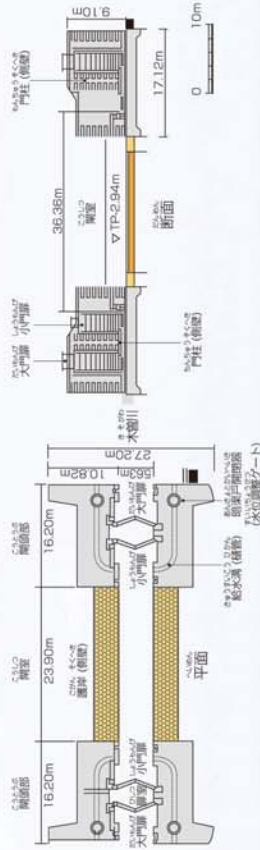
4

Q. 船頭平閘門はいつできたの？

船頭平閘門の工事は、1899年（明治32年）から1902年（明治35年）3月までの2年7ヶ月にかけて行われました。

レンガ/約180万個 砂 /1,220m³
セメント/1,390t⁺ 労働者/約40万人あまり
砂利/930m³ 総工費/約5億円[※]

※現在の貨幣価値に換算すると



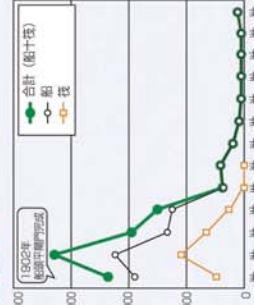
完成以来90年余利用されてきた船頭平閘門も、水門扉・閘門内の石積みなどが古くなったため、当時のままの景観や構造で、平成6年に改築されました。

5

Q. 船頭平閘門の通航状況は？

船頭平閘門ができた当初は、グラフのように船と筏の通航に多く利用されていましたが、1952年（昭和27年）を最後に筏の通航が無く、通航数が減少しています。

現在の通航状況は年間600～700隻となり、レジャーボートが大部分を占めるようになっています。



6

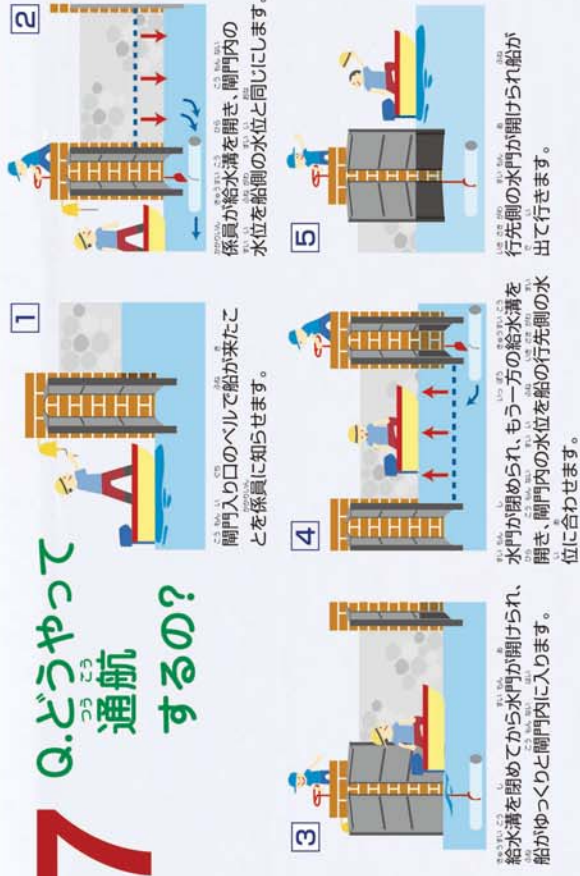
Q. 船頭平閘門、木曾川文庫ってなに？

船頭平閘門には国土交通省の閘門管理所がおかれていて、職員がいつも管理をしています。敷地面積は1.55haあり、閘門西側の国営木曾三川公園（長良川高水敷2.7ha）とともに、船頭平公園として整備されています。公園内にはヨハニス・デ・レイケの像があり、今も木曾三川を見守っています。

木曾川文庫は昭和62年に開設されました。木曾三川の治水に関する文献や資料が数多く保管・展示されており、訪れた多くの人に河川の情報を提供しています。また、平成16年3月に改築された旧閘門管理所は、地域の方の会議や情報交換、自然学習会の場として利用されています。

7

Q. どうやって通航するの？



ご案内

せんだうひらこうもん いち 船頭平閘門の位置



交通機関

- 名古屋・岐阜・四日市から車で約1時間
- 東名阪・長島ICから10分
- 国道1号尾張大橋から10分
- 名神高速羽島ICから30分

〒511-0002
国土交通省中部地方整備局
木曾川下流河川事務所
桑名市大字福島465
TEL(0594)24-5711

〒496-0946
船頭平閘門管理所
愛知県愛西市立田町福原
TEL(0567)24-6233
FAX(0567)24-5166